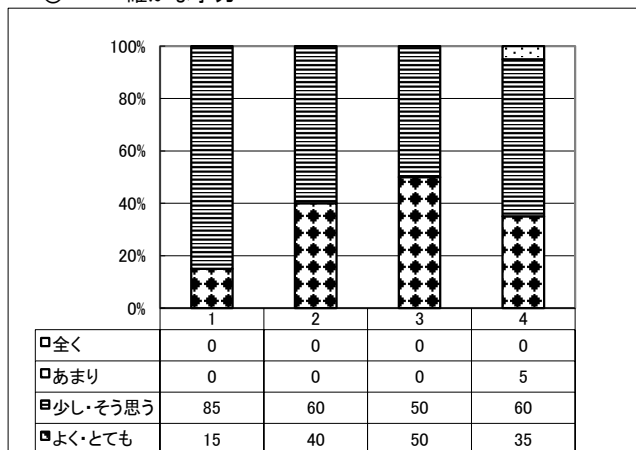


平成29年度 自己評価(教職員) 結果・考察

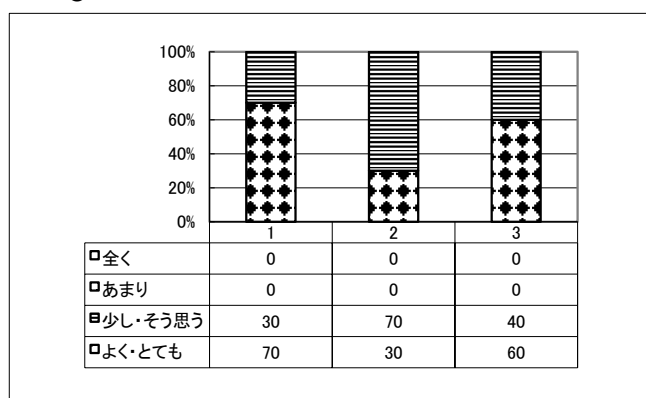
◎ 確かな学力



- ①子どもが、自ら進んで学習課題を見つけ、自分の力で解決できるような学習計画と指導にあたっている。
- ②子どもが、友達の話の聞いたり、自分の思ったことや考えたことを伝えたりしながら学習に取り組めるように、指導・支援を行っている。
- ③子どもが、発達段階に応じた系統的な学びで基礎的な学力が身につくように、学習計画を立て指導を行っている。
- ④子どもたちの学びが計画的に積み重ねられていくように、職員は一体となって取り組んでいる。

全体的に「よく・とても」や「少し・そう思う」の評価である。①は「よく・とても」が他に比べて低い。自ら意欲的に学習課題を見つけ、自分の力で主体的に解決できるような手立てをさらに講じる必要がある。③の1～6年までを見通した系統性を意識し、学習計画を立てて指導を行っているという評価が高い。児童も見通しをもって学習できるので継続していけるとよい。

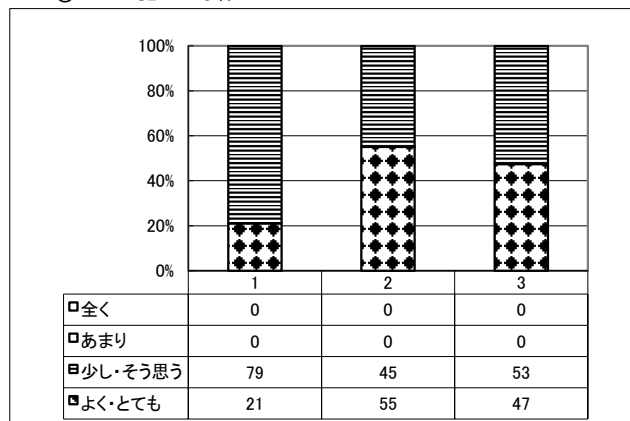
◎ 豊かな心



- ①子どもが、毎日楽しく登校できるように、指導・支援や環境設定を行っている。
- ②子どもが、お互いに助け合い、協力し合って学習や活動ができるように、学習計画を立て指導を行っている。
- ③子どもの学年や状況に応じ、道徳の学習を進め、人権を尊重する精神を育む指導を行っている。

①や③の評価が高い。③は道徳を重点研で取り組んでいることもあり、道徳教育が充実してきたことが表れている。また、日々の職員間の情報共有がとれていることから、指導・支援が行いやすい点が挙げられる。

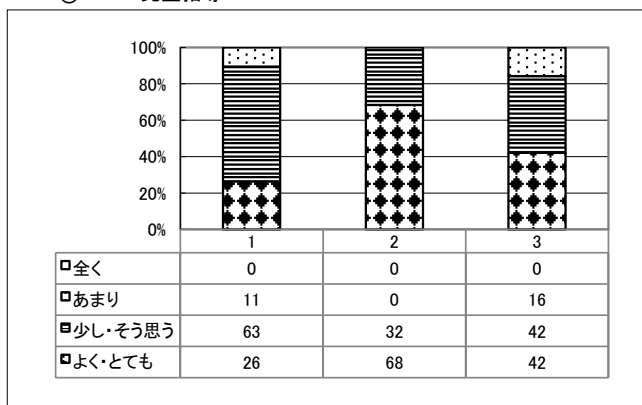
◎ 健やかな体



- ①子どもが、体育の授業で学習カードを用いて進んで学習したり、外で遊んだりして、運動に親しめるような、指導・支援を行っている。
- ②くすのき週間、歯みがき週間、学校保健委員会等の活動に参加し、健康的な生活がおくれるよう、指導・支援、環境設定を行っている。
- ③子どもが、健康や成長のために、栄養のバランスを考えながら食事ができるように、指導・支援を行っている。

昨年度よりも健やかな体に関する評価が、全体的に高くなった。授業では、学習カードを活用して指導をし、また年間を通じた健康指導の成果であると考えられるので、継続していきたい。

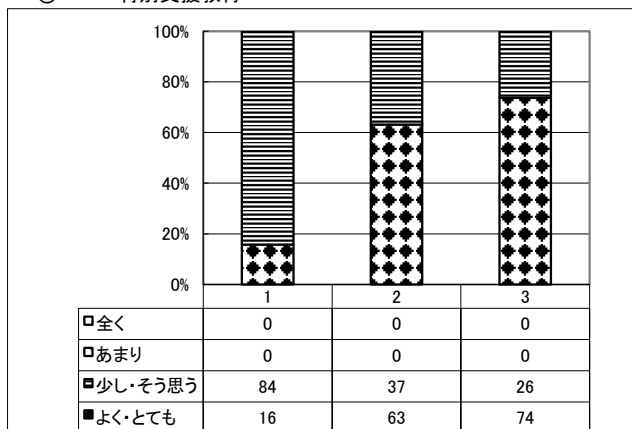
◎ 児童指導



- ①子どもが、元気よく場に応じた挨拶ができるように指導を行っている。
- ②生活や学習などの相談がある場合に、早期発見・早期解決のための対応をしている。
- ③3か月毎にステップアップカードで学習や生活を振り返らせ、子どもに自分を見つめて次の目標を設定してよりよい生活につなげられるように取り組んでいる。

①③については評価が低い。1割以上が「あまり」と答えている。挨拶については、生活目標でも掲げ、繰り返し指導している。ステップアップカードについては、次の目標を意識づけていくことを考えていく必要があるだろう。②は評価が高い。職員間で取り組んでいく必要感を感じている。

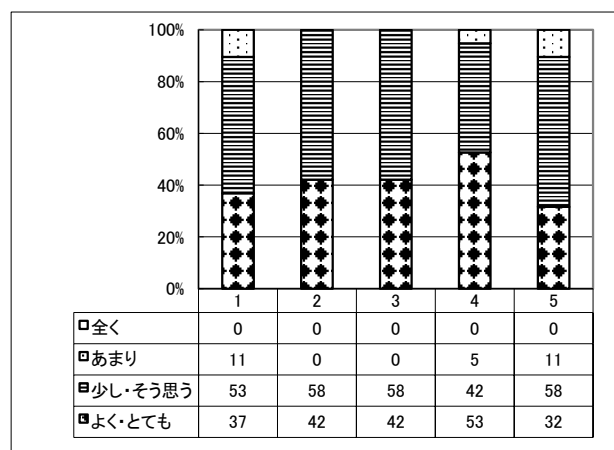
◎ 特別支援教育



- ①備品・掲示物等を整理し、教室の学習環境を整えている。
- ②だれもが安心して学校生活を送れるように個に応じた支援をしている。
- ③子どもたちの様々なケースに対して、チームで対応して解決している。

③のチームで対応して解決している認識ではあるが、今後も、学年だけでなく、児童支援専任と連携をとって支援していく。また、特別支援コーディネーターを中心に、支援の形を考え、充実させていく。①の教室環境は「よく・とても」が1割ほどになっている。子どもが落ち着いて学習するために統一していく。

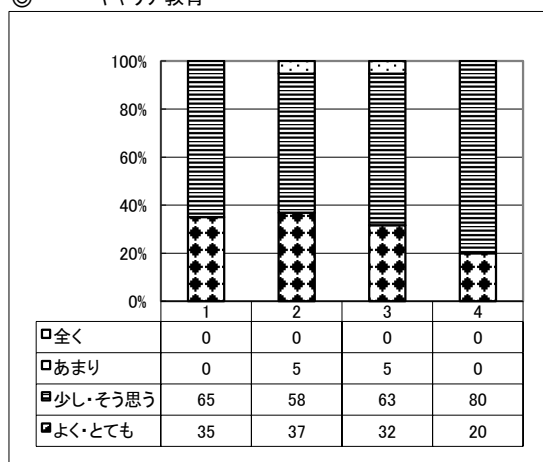
◎ 地域連携



- ①地域の行事（夏祭りやチルドレンサークル、自治会の行事など）に参加できるように、子どもに周知している。
- ②保護者や地域の方々と関わりをもって、「開かれた学校運営」になるように取り組んでいる。
- ③子どもたちの安全を守るために、地域や保護者との連携を深めている。
- ④メール配信等緊急時の連絡システムを確立し、整備を進めている。
- ⑤情報発信を密にし、家庭・地域からの意見を集約し反映している。

全体的に見て、評価は高いものの、①④⑤の項目で1割近い教職員が「あまり」と答えている。地域の行事について確認したり、家庭・地域の意見の生かし方を考えたりする必要がある。

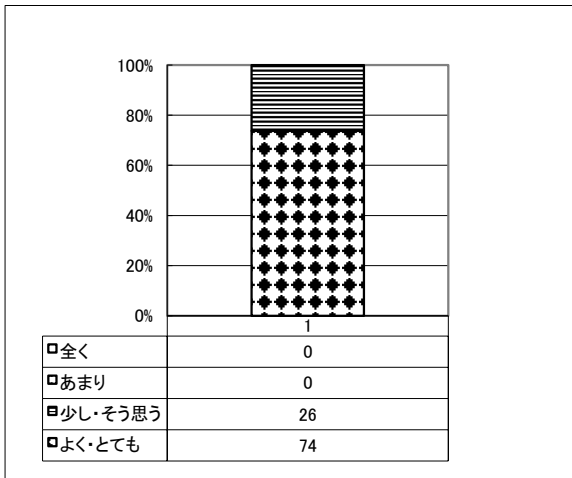
◎ キャリア教育



- ①子どもが、様々なキャリアをもつ人々から学んで、知識理解を深められるように、指導を行っている。
- ②学年の発達に応じた「『食』の学び」を通して、健やかな体と豊かな心が育つよう、学習計画を立て、指導を行っている。
- ③地域や様々な人との交流を通して、自分たちが住むまちの良さや伝統を感じられるように、学習計画を立て、指導を行っている。
- ④異学年交流（たてわり活動、幼保小連携、小中連携など）を通して、異学年の子どもたちと進んでコミュニケーションがとれるように、環境設定をし、指導にあたっている。

②③の項目で、1割近い教職員が「あまり」と答えている。「『食』の学び」では具体的にどのような子どもに育てていくのか確認したり、地域や様々な人との交流から、何を学ばせたいのか今一度考えたりしていく必要がある。今後は、「『食』の学び」を含めたキャリア教育の充実を検討していきたい。

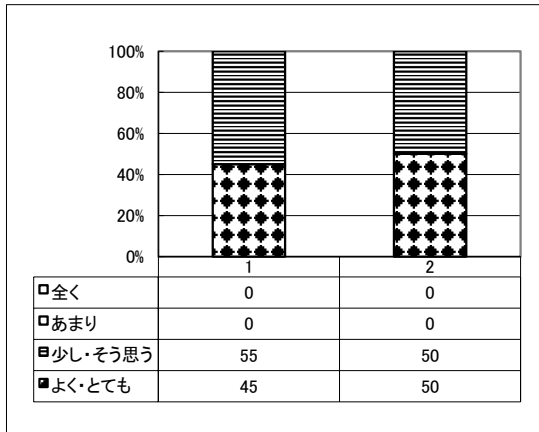
◎ いじめへの対応



①いじめ基本方針に則り、定期的にアンケート(学校生活について 年2回、いじめについて 年2回)を実施するなどして、いじめの早期発見・早期対応に努めている。

定期的にアンケートを実施し、組織的に対応することを心がけてきた。引き続き、いじめの早期発見・早期対応に努めていきたい。

◎ 人材育成・組織運営

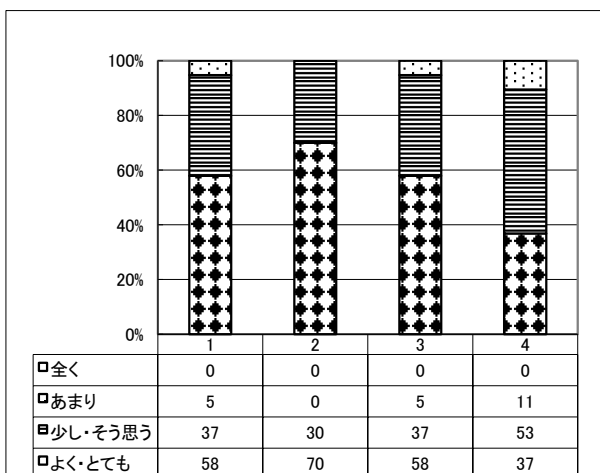


①各研修やメンターチームの取組などを通し、自己の研鑽に努めている。

②教職員は、学び合う姿勢を大切にして研修している。

学び合う姿勢に対する評価は概ね高い。これからも研修を継続し、常に高め合っていけるように自己の研鑽に努めていきたい。

◎ 危機管理



①学校は、安全に関する組織が適切に生まれ、危機に対する対応ができています。

②学校は、施設・設備について日常的な点検や管理が、行われている。

③学校は、緊急情報を素早く確実に発信できる体制が、整っている。

④学校は、危機対応マニュアルを検証し危機管理のために、地域や保護者との連携を深めている。

安全に関する組織が適切に生まれ、日常的な点検や管理が行われていると感じている。さらに、地域や保護者との連携を深めていくことに努めたい。